平成28年度 学校教育研究計画及び実践の概要

1 学校教育目標達成への方策について

本校の教育目標
学ぶことへの意欲に満ち、互いのよさを認め合い、励まし合い、たくましく生きぬく児童を育成する。

- (1) 教育目標を具現化するための経営方針や重点努力目標
全職員が自らの使命と責任を自覚し、日々研修に努め、共通理解のもとで創意工夫と率先垂範・師弟同行によって、教育目標の達成に努めます。
 - ① 経営方針
 - いのちを尊び、たくましく生きる力をはぐくむ教育活動の充実
 - 豊かな心をもち、主体的に行動できる児童の育成
 - 児童一人一人の「よさ」に目を向け、創意と活力に満ちた学校運営の実践
 - 学校、家庭や地域社会との連携を密にした開かれた学校づくり
 - ② 重点努力目標
 - ア 豊かな心・自立する力の育成
 - 命を大切に作る心や実践力を身に付け、ともに高め合う児童の育成を図ります。
 - 心を開き、分け隔てなくあいさつできる児童の育成に取り組みます。
 - イ 確かな学力・生きる力の育成
 - アクティブ・ラーニングを取り入れた教育活動を推進します。
 - キャリア教育を充実させ、夢や希望に向かって取り組む児童の育成を図ります。
 - 基本的な生活習慣を身に付けさせます。
 - ウ 家庭や地域社会、幼保小中高の連携
 - 地域社会全体で子どもを育てられるよう、学校運営支援協議会や地域団体との連携を深めます。
 - 全教育活動の中に家庭、地域の教育力を生かします。
 - 幼保小中高の連携を深め、健全な児童の育成を図ります。
 - (2) 教育課程の編成とその実施状況について
 - 朝の10分間に「わくわくトーク」を新設し、話す機会を増やすことで自分の意見や発表を聞いてもらえる喜びを感じ、協働学習の中で主体的・能動的にかかわり合うための基盤とします。
 - 学活や30分間の放課を利用して全学年の縦割り活動を行い、異学年の交流を深めながら、児童のリーダー性を引き出し、感謝や思いやりの気持ちなどの豊かな心を育てています。
 - 家庭や地域社会との連携を密にするために、あいさつ運動を行うとともに、保護者や地域の人と一緒に活動する行事を行います。
 - かりやど祭りや運動会などの学校行事の充実を図るとともに、地域行事への児童の積極的な参加を図り、学校と家庭、地域が一体となった学校をめざします。
- ## 2 学習指導要領の趣旨を踏まえた取組について
- (1) アクティブ・ラーニングを取り入れた教育活動を推進し、児童が認め合い高め合う授業づくりを進めます。
 - (2) 少人数指導や取り出し指導を積極的に行い、個に応じた指導の一層の充実を図ります。
 - (3) 各教科、行事等を通じて自己肯定感と言語力を高める活動を計画的に入れていきます。
 - (3) 国語では、話し合う活動を計画的に取り入れ、言葉で伝え合う能力を育成し

ます。

- (4) 算数では、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせます。また、数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めていきます。

3 本年度の重点的な取組について

- (1) 児童会を中心としたあいさつ運動を行い、心を開き、分け隔てなくあいさつできる児童の育成を図ります。
- (2) アクティブ・ラーニングの研究を全職員で進めます。
- (3) キャリア教育の充実を図り、児童一人一人の生きる力を育む教育を推進します。
- (4) 計画的に授業研究、外部講師による実技研修を進め、教師としての力量向上を図ります。
- (5) 「学校いじめ防止基本方針」の共通理解を図り、いじめや不登校をなくすサポート体制を構築します。
- (6) 特別支援教育の研修を進め、児童一人一人に合った支援計画の作成、支援体制の整備を図ります。
- (7) 日頃の教育実践を『雁宿小学校の教育』としてまとめ、全世帯へ配付しホームページ上で公開します。

4 校内現職教育の推進について

- (1) 研究主題

主体的に考え、進んで学び合う児童の育成
—能動的な課題解決学習を通して—

- (2) 主題設定の理由

半田市教育委員会より「アクティブ・ラーニング」の研究委嘱を受けました。これまで現職教育で取り組んできたキャリア教育を基にして、様々な教科、領域でアクティブ・ラーニングを取り入れた実践を行い、本校ならではのアクティブ・ラーニングのあり方を考えていきます。

- (3) めざす子ども像

自分の課題を見つけ課題解決のために積極的に学び合うことができる児童

- (4) 研究仮説

アクティブ・ラーニングを軸にした学習活動を行うことで、自らの学びを深められる児童が育成できるであろう。

- (5) 研究の方針

- ① 仮説に基づき、各学年で手立てを考え、教科領域を問わず、研究授業に取り組んでいきます。
- ② 2年間で研究をまとめるが、3年目以降も継続させていきます。
- ③ 研究授業は「提案授業」と考え、協議会では「提案された手立て」が「その授業のねらい」を達成させるために有効だったかを話し合います。
- ④ 児童の能力伸長はもちろんであるが、職員の資質向上も含め、職員全員で研究を進めます。
- ⑤ 本校ならではのアクティブ・ラーニングのあり方を考えていきます。

- (6) 研究の方法

- ① 授業研究について

ア 学年部会、低中高学年部会を中心に研究をすすめます。

イ 学年ごとに、めざす子ども像に対しての児童の実態を把握し、研究の手

- 立てを決めて取り組みます。
- ウ 研究授業は各学年1名で行います。
- エ 全体協議会では、多くの先生が発言できるように、5人程度の少人数グループで、司会も多くの先生ができるようにその都度決めます。
- ② 総合的な学習、道徳、生活科、学活、教科、なかよし団、アクティブラーニングについて
さまざまな教科領域で、アクティブ・ラーニングを取り入れた活動を行うために、部会、学年会等で検討をしていきます。
- ③ ゲストティーチャーの有効活用について
ア 外部講師を招く活動では、活動に対する指導だけでなく、その方の仕事観や社会人としてその職種に求められているものなど、仕事に関するお話もしていただくようにしています。
イ 職業講話の時間を設けることができるか各学年で検討します。
- ④ なかよし団、クラブ、委員会について
昨年度の反省を基に改良したトライシートを活用し、PDCAを意識できるようにします。
- ⑤ ドリームマップの取組について
キャリア教育の一環として、昨年度の実践を基に各学年で必要に応じて実施します。
- ⑥ 「わくわくトーク」の新設について
ア 話す機会を増やすことで、自分の意見や発見を聞いてもらえる喜びを感じ、協働学習の中で主体的・能動的にかかわり合うための基礎とします。
イ 各学年、個人に応じて方法を考え、自分の考えを伝えるためのスキルの習得もかねて行っていきます。
ウ 話すだけでなく、聞くこと、尋ねること、答えること、つなぐことも重点に置いて行っていきます。
エ 1年生の入学当初から始め、進級しても継続して行い、ステップアップできるものとしていきます。

(7) 各学年の研究

学年	めざす子ども像	手 立 て
1	自分のやりたいことを見 つけられる子 自分の思いを伝え、相手 の話を聞ける子	○課題の提示の仕方を工夫する。 ○友達と関わる活動を多く取り入れる
2	友だちの話が聞ける子 互いの話を聞いて、認め 合える子	○ペアやグループなど、少人数でのコミュニケーション活動を行うことによって、発言しやすくし、互いに認め合える場づくりをする。 ○相手の意見を復唱することによって、相手が伝えたいことを理解し、受容的に聞かせる。
3	自分の考えや友達の考え のよさを認め、意欲的に 目標に向かって活動でき る子	○児童主体で学びを深めていけるよう、小グループでの話し合いの場を設け、話し合ったことを全体の場で伝え合う。 ○振り返りの時間を設け、自分の振り返りで気がついたことを友達と伝え合う。
4	目標に対して自分のめあ てをもち、継続して取り 組める子 関わり合う活動を通して 自他共に認め合える子	○めあてをもちたくなるような導入を工夫し、意欲を継続させるための記録や振り返りをする。 ○朝のスピーチタイム、話し合い活動、体験活動を設定し、友達のよさや自分との違いに気づく場を多く取り入れる。
5	自分なりの課題をもち学 習に取り組み、進んで学	○意見の交流や話し合いの場を意図的に設定する。

	び合うことのできる子	○学習への理解を確かなものにしたり、次時の課題をもったりするために、学習のまとめ・振り返りの時間を設ける。
6	他者との関わりを通して自分なりの興味や課題をもち、積極的に学んだり、次の課題を見つけたることができる子	○児童主体の課題発見・解決ができるように、意図的に話し合いの場を設定する。 ○自分の学びを整理し、次の課題を考えるために振り返りを共有する場を設定する。
さ く ら	相手を見て、聞いたり伝えたりできる子 言葉で伝えることができる子 伝えられたことを、心に留めることのできる子	○聞く・話すときに、態度や姿勢から相手に向かうことができるように意識させる。 ○ソーシャルスキルトレーニングなどに取り組み、自分の思いを伝える語彙を増やす。 ○読み聞かせの時間を設け、感想を伝え合う練習をする。

(8) 研究の実際

研 究 ・ 研 修 内 容	
4月	現職教育講座「アクティブ・ラーニングの授業づくり」 講師 愛知教育大学 加納 誠司氏
6月	プール機器操作講習会 救急法講習会
7月	授業研究 3-2 算数「円と球」 授業研究 4-3 社会「なくそう、こわい火事」
8月	現職教育講座「教室環境の整備方法、掲示物の作成実技」 講師 榊原澄子 現職教育講座「落雷に対する注意」 講師 半田消防署 現職教育講座「QUテストの活用について」 講師 名城大学 杉村 秀充氏 現職教育講座「深い学びに導くアクティブ・ラーニングの授業づくり」 講師 愛知教育大学 加納 誠司氏
9月	授業研究 5-1 国語「日常を十七音で」 助言者 愛知教育大学 加納 誠司氏
11月	研究授業 さくら 生単「ともだちをむかえよう」
12月	研究授業 2-1 道徳「いじめストップ」 助言者 愛知教育大学 加納 誠司氏
2月	半田市教育講演会「主体的・対話的な深い学び（アクティブ・ラーニング）をどう進めるべきか」 講師 上智大学名誉教授 加藤 幸次氏
3月	研究のまとめ「雁宿小学校の教育」原稿作成 本年度の取組についての反省 「雁宿小学校の教育」（ホームページ上で公開）発刊
※現職教育部会を月に1度開催	